

飯豊町立いいでの森学園

# 開校準備委員会 だより

こちらは町のホームページでもご覧いただけます。

第12号 令和8年2月発行

編集・発行 開校準備委員会

問い合わせ先

事務局：飯豊町 教育総務課

義務教育学校準備室

## ◆◆第12回 開校準備委員会を開催しました◆◆

とき 令和8年1月8日（木）午後6時30分より

ところ 町民総合センター あ～す

内容 ○義務教育学校の開校時期・校名再検討について



義務教育学校を令和14年度4月に開校する。

校名「いいでの森学園」の再検討を行う。

<町長による説明～抜粋～>



【嵐 正人 町長】

私がから開校や校名などについてお話をさせていただきます。私が町長に就任させていただいたから2か月ほど経過しこの委員会に出席させていただいた際に、町として義務教育学校の開校を目指していきながら、その過程の上でしっかりと計画をし、進めていきたいというお話をさせていただいたところです。その後の3月議会において条例の一部改正を行い、まずは町内に2校の小学校設置とし、町内の極小規模学校・複式学級の解消ということで令和8年の4月1日から第二小学校へ添川小学校と手ノ子小学校の統合という方向性を示しました。そして、昨年の12月議会において、令和14年度に義務教育学校を開校したいと議員の皆さんにお話をさせていただきました。

開校時期の理由については、4つほどありますので説明をいたします。

まず1つ目として、子ども達の環境の変化を緩やかにしたいということです。令和8年4月に、第二小学校へ手ノ子と添川各小学校の子ども達が合流しますが、環境の変化ということに子ども達は不安な思いをしていると思っております。第二小学校の子ども達も、手ノ子、添川小の子ども達を迎える準備をして4月1日を迎えることとなります。その中で、例えば2年、3年後にまた新たな学校になることとなっては、子ども達の負担や不安感が拭えないのではないかと思っております。そのため、1つの区切りとして、令和8年4月に小学1年生になる子どもが中学校に上がる年、令和14年の4月を目標点としたということです。

2つ目として、令和15年度になると統合した第二小学校でまた複式学級が発生する見込となっているためです。統合の目的として複式学級の解消がありますが、令和15年度に再び複式学級ができてしまうということでは、統合の目的から外れてしまうところがあるため、その前に義務教育学校を開校したいということです。

3つ目として、地域の閉塞感を緩やかにしたいことがあります。この4月には添川と手ノ子から学校がなくなります。そうなると地域から子ども達の声が少なくなったり、賑やかな集まりの場がなくなることへの不安を抱えていると思っております。そうならないために空き校舎を活用した取組を並行して行っていきたいと考えています。

4つ目として予算の確保があります。町の大型事業が今までいろいろあった中で、令和8年度からおよそ令和12年度まで、借入金の償還がピークを迎えていきます。それと並行して校舎の建築を行うと町民の皆様に非常に負担をおかけしますし、無理を押してやった場合には、その分の負債を今から2、3世代下の町民に押しつけることになってしまいます。せっかく夢を育む学校を作るのに、その借金の返済にその学校に通う子ども達が苦労をすることはあってはならないと思いますので、しっかり資金計画を立ててやっていきたいと考えています。そのために、まずは3月の議会で義務教育学校設置基金の設立を予定しています。令和8年度から決算剰余金の部分として、年におよそ2000万円ずつ積み立て、学校建築には大きな金額ではありませんが、6年間で1億

2000万円をめざします。また、令和14年度に開校するにあたり、現在の予定よりコンパクトな校舎の設計ができるとも考えています。人数が減っているということもあります、本当に必要なスペースを確保しながら必要以上に華美にはならない校舎にしていくとともに、いろいろな方が集まる場所として駐車場やそこからの動線などの外構も大事にしていきたいと思います。その中で、グラウンドや遊具を一体的に整備し、町の教育の要となるような場所とするために、基金を積み立てながら、様々な国の補助事業を活用し、少しでも町の財政負担を減らしながら校舎の建築をしていく計画であります。

続いて、校名についてです。こちらについてはいろいろな面で皆様にもご迷惑をおかけしていると思っております。令和5年12月の議会で校名が決定となったわけですが、その過程ではこの開校準備委員会の皆様に議論いただき、そして教育委員会・総合教育会議で決定となった内容を上程したという、しっかりと手順を踏んで進めた内容と認識しています。募集要項にもあります通り、いろんな方から募集を行った上で決定した名前であり、軽視できないとも思っています。その中で、新聞への掲載もありましたが、昨年の10月に校名の再検討を求めたいという約1,500人分の署名が私の元に届けられました。要望があつたということは事実として重く受け止めながらも、皆様に愛される学校、今後飯豊町の教育への投資という中で校名のために町が揺れているということはあってはならないと思っておりませんので、再検討をしたいということを議員の方にお話をさせていただきました。「いいでの森」という名前に込められた思いというのは、経過を確認させていただきますと非常に重いものがありますし、愛される名前、ふさわしい名前ということで選ばれたと思っておりますが、選定の経過や校名に込められた思いが町民の方にうまく伝わっていないのではないかとも思っております。署名を行った方が、選定の経過や校名に込められた思いを知った上で再検討してほしいと言っているのかについてはわからない部分ではありますが、経過や思いを町民の方々に伝えながら、調査という形で意見を募りたいと思っております。その結果をこの準備委員会で見ていただきながら、情報をしっかりとオープンにして決めていきたいと思います。多数決がすべてというわけではなく、校名に込められた思いを周知した上で、いただいた意見を大事にしながら、拙速にならないようにしっかりと準備をしながら決めていきたいと思っております。

### ＜町長あいさつに関する委員の意見の大要＞

- ◇ 義務教育学校開校の方針は、ぶれずに実現に向けて進めてほしい。
- ◇ 校名に込められた思いや決定までの経過について、改めて確認し合うことが必要であり町民に周知してほしい。
- ◇ 町民の声を聞く姿勢に敬意を表し、再検討は否定しないが、拙速になることなく、調査の実施の是非を含めて手法をしっかりと議論し、混乱を招くことのないよう慎重に進めてほしい。
- ◇ 校名再検討は、教育委員会が主管すべきと考える。



### 確 認 し た こ と

#### 開校準備委員会 今後の見通しを確認

町長の開校時期の表明を受けて、本委員会の今後の見通しを事務局より提案し承認されました。

1. 義務教育学校開校準備委員会は、継続して設置します。
2. これまで本委員会で協議し承認した各専門部会の調査・検討事項について、基本的に結果は継承し、過程は生かします。
3. 8年度以降、学校関係からの本委員会委員の委嘱、専門部会部員の選出は、第一小、第二小、飯豊中の各職にある方とし、本委員会の委員構成及び専門部会の部員構成を見直します。
4. 開校予定が令和14年度であること及び各事項の調査・検討状況を勘案し、本委員会の調査・検討スケジュール、専門部会の組織、所掌事項を見直します。

いいでの森学園（飯豊町義務教育学校）開校についてのご質問や心配事は、こちらまでお寄せください。

【事務局】飯豊町 教育総務課 義務教育学校準備室 E-mail:i-junbi@town.iide.yamagata.jp